京都大学音楽研究会ハイマート合唱団

第63回定期演奏会

Program

Sechs Lieder Op. 41
F. Mendelssohn　作曲
指揮：中西 錠樹

無伴奏混声合唱のために
「廃墟から」
信長 貴富　作曲
指揮：片桐 恭平

Mass in D major Op. 86
A. Dvořák　作曲
指揮：本山 秀毅
オルガン：中山 幾美子

2024年
12/14（土）

開場　15:00
開演　15:30

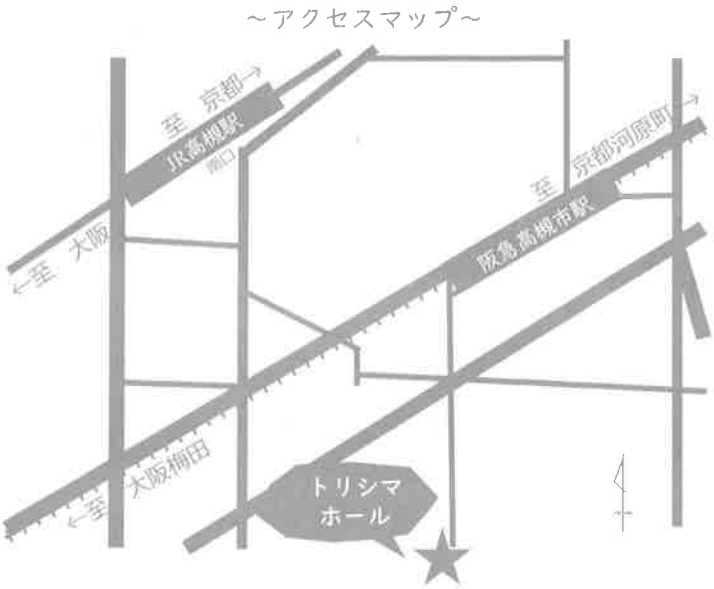
高槻城公園芸術文化劇場 トリシマホール
〒569-0077　大阪府高槻市野見町6（南館）
阪急高槻市駅より徒歩8分／JR高槻駅より徒歩13分

後援：関西合唱連盟，京都府合唱連盟
連絡先：平井 孝明
E-Mail：teien2024@heimat-choir.net　　𝕏：@heimatchoir

ハイマート合唱団　検索

京都大学音楽研究会ハイマート合唱団

ハイマート（Heimat）とはドイツ語で「ふるさと」を意味します。その名が示すとおり和やかな雰囲気で、団員たちの「ふるさと」とも言える団です。現在、京都大学公認の下、京大生（院生を含む）をはじめとして約60名が在籍し、毎年12月に開催する定期演奏会を中心に各種合同演奏やイベント出演など幅広く活動しています。



Stage 1　Sechs Lieder Op. 41

ロマン派音楽を代表する作曲家であるメンデルスゾーンにより作曲された本曲は、ロマン派という堅いイメージとは裏腹に、生命力にあふれた明るい曲集となっています。宗教音楽ではなく、ハイネやゲーテといった詩人の詩に音楽を付けた、いわば合唱歌曲なる部類に当たります。その詩のテーマは、自然の賛美や恋愛抒情など多岐にわたりますが、どの詩も人間の心情を豊かに描いており、親しみ深いものばかりです。中でも終曲の「Auf dem See」は、雄大な自然を全身で感じながら、過去と決別し前に進もうとする様を、流れるリズムに乗せた豊かなメロディで壮大に歌い上げる、見どころの一曲です。

Stage 2　無伴奏混声合唱のために「廃墟から」

この作品は被爆二世である信長貴富が戦争をテーマに作曲したものです。第一章では原民喜の詩をテキストとして原爆のフラッシュバックが、第二章では多くの不協和音によってガダルカナル戦における飢餓や戦時の心理状態が表現されます。第三章では戦地にもなった沖縄に伝わるウムイが題材に用いられています。ウムイとは沖縄の神事で歌われる歌であり、琉球音階が各所で使われています。組曲を通じ、戦争の狂乱や絶望、そして平和の祈りをお届けします。

Stage 3　Mass in D major, Op. 86

「新世界より」で有名なチェコの作曲家であるドヴォルザークによるミサ曲です。彼が手がけたミサ曲の中では現存する唯一の作品であり、小さな教会の献堂式のために作られました。初演は小さなアンサンブルとオルガンによって行われ、アルトの独唱をドヴォルザークの妻アンナが演奏したとされています。屈指のメロディ・メーカーであるドヴォルザークによって作られたこの曲は、親しみやすく、どこか素朴な旋律がその魅力のひとつとなっています。アンサンブルとオルガンによる豊かなハーモニーにも注目してお楽しみください。

常任指揮者　本山秀毅

2015年から弊団常任指揮者を務める。フランクフルト音楽大学合唱指揮科卒業。バッハを主とする音楽の演奏活動を続ける。「バッハアカデミー関西」を設立し、「教会暦によるカンタータシリーズ」によりバッハの声楽作品の全曲演奏に取り組んでいる。一般・大学合唱団の客演指揮者、全日本合唱コンクール等の審査員として合唱音楽の普及に努めている。第15回藤堂音楽褒賞、2001年京都市芸術新人賞、2016年長井賞受賞。

オルガン　中山幾美子

同志社女子大学及びハンブルク国立音楽大学卒業。二度にわたりポーランドのクラコフ夏期オルガン連続演奏会にて招聘演奏した他、京都コンサートホール、宝塚ベガホール等で度々演奏。また通奏低音奏者、伴奏者としても数多くの演奏会に出演。室内楽やオーケストラとの共演も多い。同志社女子大学音楽学科嘱託講師、大阪音楽大学大学院非常勤講師。同志社女子中高、女子大学などでオルガニストをつとめる。